

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202494
法人名	有限会社 グループホーム カナリアの家
事業所名	グループホーム カナリアの家ファミリア
所在地	〒857-1164 長崎県佐世保市白岳町1398-8 (電話) 0956-32-8977

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年1月16日	評価確定日	平成20年2月14日

【情報提供票より】(平成19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート 造り
	1階 建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円		その他の経費(月額)	水道光熱費 9,600 円
敷 金	有(円) (無)			その他 実費
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000円) 無		有りの場合 償却の有無	有(期間:10年)
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	82 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加瀬クリニック・佐世保中央病院・宮原病院・大串歯科病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

訪問調査当日は木枯らしの寒い日であったが、ホームの玄関に入ると、暖かい団欒の空気が優しく迎え入れてくれた。入居者と職員の寄り添いながらの共同生活を色々な場面で目にする事が出来、常にコミュニケーションとアイコンタクトで意思の疎通を図られている。ホームの近隣は新旧混合の住宅街と町工場があり、近くにあった商店が閉店したので買い物には一寸不便を感じられているが、2日に1回の買出しには入居者と職員が連れ立って、ドライブを兼ねて出掛けられている。しかし、外出時に車椅子利用の入居者が6名いらっしゃる為、出掛けられる入居者には限りがあるのが現実である。今後は外出の支援の偏りと回数の減少がホームの課題になるのではないかと。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の改善項目について、具体的改善計画シートの作成はされていないが、外部評価の結果については、後日の会議で報告・話し合いされている。研修受講内容の職員間での共有に繋がる取り組みは、報告書作成と伝達講習等で改善されている。又、入居者の金銭管理報告は報告時に記名又は押印をして頂き、報告の透明性に繋がられている。改善出来る事は直ぐに取り組み実践に移されているが、個別記録と地域との交流は試行錯誤の最中である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で項目を分割して取り組まれ、管理者と主任クラスの人で全体をまとめられている。様式・項目が変わった事もあり、内容の理解や記入の仕方に困惑されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) メンバーの出席に偏りはあるものの、概ね2ヶ月に1回開催をされている。運営推進会議では、入居者の状況及び活動内容の報告、ホーム運営に関する伝達事項などの他、参加メンバーとのサービス提供に関する建設的な質疑応答が展開されており、サービスの向上に反映されている。又、家族には輪番制で会議に参加して頂き、他の家族には会議報告書を配布されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族からの要望・意見など伝えて貰いにくい中、新しい入居者が入られる事で家族の新鮮な目線での意見を頂戴する事もある。卑近な例では、居室に設置されたポータブルトイレの使用後の清潔保持や、洗面所の歯磨きセットを洗面台下に収納するのは不潔ではないかなど、習慣化した生活形態の見直しに繋がる貴重な意見を頂かれ、真摯に受け止め、ポータブルトイレの清潔保持に関してはウエットティッシュの配置をされ、歯磨きセットに関しては個人名を書いて洗面台脇に設置されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) まだまだ地域との関わりを模索中で、これまでの地域に出向いての行事参加から、更に発展した取り組みとして、ホーム行事に地域の方も一緒に参加して貰える取り組みを検討されている。行事を通じた交流と並行して、町内の民生委員や老人会・婦人会など町内組織とのネットワーク作りの取り組みも期待される。

特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念【自信と生きがいを持ち、家庭的な雰囲気をつくり、持てる力を生かしながらお互いに支えあうような環境で暮らしたい】を、地域に波及させた広義な物として、イメージを新たにされている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共同生活者である入居者・職員の、「その人がその人らしく」をキーワードに職員一人ひとりの気付きや意見が日々の取り組みに反映されており、職員の意識の向上にも繋がっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	まだまだ地域との関わりを模索中で、これまでの地域に出向いての行事参加から、更に発展した取り組みとして、ホーム行事に地域の方も一緒に参加して貰える取り組みを検討されている。手始めに、昨年末にホーム独自で餅つきを計画されていたが、佐世保市の湯水対策で実行に至っておらず、非常に残念な思いをされている。	○	行事を通じた交流と並行して、町内の民生委員や老人会等の町内会組織とのネットワーク作りの取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で項目を分割して取り組まれ、管理者・主任クラスの人で全体をまとめられている。前回の外部評価の改善項目について、具体的改善計画シートの作成などはされていないが、外部評価の結果については、後日の会議で報告・話し合いをされている。直ぐに改善出来る項目に関しては実行に移されている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの出席に偏りはあるものの、概ね2ヶ月に1回開催されている。運営推進会議では、入居者の状況及び活動内容の報告、ホーム運営などに関する伝達事項などの他、参加メンバーとのサービス提供に関する建設的な質疑応答が展開されており、サービスの向上に反映されている。		

グループホーム カナリアの家ファミリア

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に対して、運営推進会議だけでなく、何時でも来訪して現場を見て頂きたい事や、ボランティア待機の情報提供などの要望・要請をされている。市の担当者からは「持ち帰って検討します」という返事は頂かれている。	○	諦めずに継続して関係構築を試み、市と共にサービスの質の向上を目指した取り組みをされる事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に発行される【たより】に、職員の異動や入居者のスナップ写真などを載せられる事もあり、ホーム生活の様子や変化に関する報告に繋がられている。又、前回の改善課題であった、家族への金銭出納報告の際の記名又は捺印も貰われており、改善されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望・意見など伝えて貰いにくい中、新しい入居者が入られる事で家族の新鮮な目線での意見を頂戴する事もある。卑近な例では、居室に設置されたポータブルトイレの使用後の清潔保持や、洗面所の歯磨きセットを洗面台下に収納するのは不潔ではないかなど、習慣化した生活形態の見直しに繋がる意見を真摯に受け止め改善されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同系列の他所のホームへの異動は、マンネリ化防止や体験学習の一環として取り入れられており、必ず戻って来れる様に配慮されている。又、職員の安定に繋がる取り組みとして、勤労学生を除いた全職員を正社員に登用され、離職率の低下に努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修受講を支援され、義務的な場合は復命処理されているが、資格取得や自己研鑽の為の研修は、体制的バックアップで支援されている。研修受講後は、月1回の会議の時に、発表又は伝達の機会が設けられている。又、報告書の作成などもされており情報の共有に反映されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック組織活動の一環として、職員育成やサービス提供関連の研修・学習会の取り組みをされており、参加・交流を通して得た物を持ち帰り、業務に活かす取り組みをされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の状況に応じた対応を心がけられており、病院から直接ホームへ入居される場合などは、入居者の意向・心配事などを聴取して、如何にしたら本人の安心・安定に繋がるか検討されている。最近の例では、「家族に会いたい、話がしたい、気になる」の訴えがあったので、家族にその事を伝え、家族の協力を得ながらホームに馴染んで貰える様に支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問調査当日、病院受診の為、昼食時間を過ぎて帰って来られた入居者に、温かい言葉をかけ歩み寄り、寄り添う姿勢で迎え入れられていた。傍目にも大事にされている事が伝わり、温かい家族愛を窺い知る事が出来る。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム生活の流れの中に入居者の出来る事、能力などを取り入れられ、入居者との関わりの中でも常に会話を通したやり取りがあり、場面に合わせた声かけや環境作りで入居者の潜在性を発見されている。コミュニケーションと観察を基本に対応され、入居者の意向の把握に繋がられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者担当職員を中心に全職員で話し合い、気付きや問題点のチェックなどを通して課題把握し、介護計画の作成に反映されている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回の見直しをされており、変化時は必要に応じ随時見直しも取り入れられているが、現状に即したその人のあるべき姿に近づく為の介護計画と、その見直しには至っていない。	○	職員間で集団援助・個別援助が共有出来る個別記録のあり方と、日々モニタリングやアセスメントに繋がる様に意識した記録の仕方で、介護計画の見直しに反映させる取り組みが期待される。

グループホーム カナリアの家ファミリア

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在までのところ精神的な面での入院が多く、特別な外出の支援の機会も少ない。又、介護保険サービスや自主サービスの観点から、ホームとしての多機能性を活かした支援が、入居者や家族、地域に波及した取り組みの理解・実践に至っていない。	○	介護保険サービスや自主サービスを活かしながら、ホームとして本人や家族の状況に応じた柔軟な対応が如何に提供出来るか、又、在宅の認知症の方やその家族への手助けの支援など、地域へのホーム機能の還元に関わる取り組みを検討し、実践される事が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特定病歴のある入居者に関しては、かかりつけ医の継続受診を支援されている。グループホームの母体、加瀬クリニックの院長でありホームドクターの、毎朝の申し送り時の立会いで、入居者の健康管理・把握は充分されており、週1回の往診に活かされている。又、医療情報提供票でかかりつけ医との医療連携もされており、適切な医療受診の支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでにターミナルケアから看取りまでを経験されており、入居時にターミナルケアについての説明をされている。現実味を帯びてきた時点で、現場職員間で介護職として、本人にふさわしい精神的な支えと身体面のケアについて話し合いながら、医療関係者や家族とその都度話し合いを通して対応されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇マナーの基本姿勢として、職員の年齢・性別に応じた入居者との関わり方をされており、ゆとりと穏やかな時間が流れている。又、記録物などの個人情報の取り扱いも慎重にされており、事務所の特定の場所に保管管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な生活の流れの中に、入居者の望んでいる生活ペースを取り入れ、詩を詠んだり、ビーズ手芸の作品作りをしたり、日々の暮らしが本人の納得に関わる支援になる様努められている。		

グループホーム カナリアの家ファミリア

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問調査当日も昼食の下準備として、ささ身割きやゴマすり、フライ用の衣付けなど入居者の出来る事に携わって貰い、職員と一緒に食事の準備をされていた。又、食事時も入居者と職員が同じ食卓を囲み、会話を挿みながら団欒を楽しんでいた。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴支援と清拭を取り入れて、入居者の清潔保持に努められている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム生活の家事一般作業の中に、入居者の経験や特技、趣味などが発揮出来る場面・環境を整え、入居者のやる気・自信回復・満足に繋がる支援を心がけられている。現在、病院から依頼されて古新聞でゴミ入れ袋を作り、病院に配布されている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の能力と意向を取り入れて、可能な限り、2日に1回のまとめ買いに入居者と一緒に出掛けられている。又、地域高齢者のゲートボールに誘われて、迎えの車で出掛け、楽しめる入居者もおられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関への施錠は日中されておらず、センサー作動のチャイム音で人の出入りが察知出来る様になっている。又、入居者の外出傾向の把握や動向の察知には、職員の何気ない気配りと入居者の様子観察を通して、タイミングを見計らった声かけ・誘導などの対応をされている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、昼間・夜間を想定した防火・避難訓練をされているが、近隣住民の参加・協力には至っておらず、現在検討中である。	○	火災・自然災害などの防災・避難ガイドラインに沿って、ホーム独自で入居者のライフラインに繋がる取り決めに明文化され、非常時に備えた対策に繋げられる事が望まれる。

グループホーム カナリアの家ファミリア

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の常識範囲内での栄養ケアはされているが、予防も含めて、個別にスポットを当てた食事面からの健康管理に繋がる取り組みが不足している。	○	協力医療機関や保健所などの管理栄養士又は保健師などに、定期的に献立内容をチェックして頂き、摂取量の少ない入居者や偏食のある入居者などについては、専門性を活かした栄養管理ケアに繋がる指導を仰がれるなどの取り組みが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁には、入居者の作品や、行事などのスナップ写真にコメントが書き込まれた写真集、職員の顔写真と名前の掲示など、自分の居場所を確認出来る工夫がされている。又、要所に、掃き出し窓や腰高窓などが設けてあり、採光や外の生活の様子をホーム内に居ながら感じる事が出来、人の気配を感じながら集いや独り居を楽しむ事が出来る。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の縁の家族写真や装飾品、こだわりの調度品などで室内環境が整備されており、本人にとって落ち着ける場所となっている。		